

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月 日

協議会名: 北斗市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む) |
|------------|--|---|---------------------|---|---|
| 株式会社新星ハイヤー | <p>運行系統名:①茂辺地・石別・上磯線、②上磯線、③大野線</p> <p>運行区間:①三ツ石～上磯駅、②三好会館～上磯駅前商店街、③新函館北斗駅～総合分庁舎前～新函館北斗駅</p> <p>運行回数:①96回、②96回、③396回</p> <p>運賃:300円(①三ツ石～茂辺地大橋間での乗降については200円)</p> | <p>より乗降しやすい住宅地内を運行するなど高齢者人口等を分析の上、運行路線及びダイヤの見直しを行った</p> <p>巡回ワゴンのほか市内を運行する公共交通を網羅したガイドマップを作成し、全戸配布した。</p> | A 計画どおり事業は適切に実施された。 | C 各路線沿線地域高齢者の利用が低調であり、収支率は目標20%に対し8.99%(前年比+2.72pt)であった。 また、輸送量について、茂辺地・石別・上磯線は3.8人(前年比+2人)と2人を上回ったが、上磯線0.5人(前年比+0.3人)及び大野線1.2人(前年比±0人)は2人を下回った。 | <p>高齢者へのアンケート調査結果を踏まえ、より乗降しやすい路線とするため、路線の一部において区域運行エリアの設定及びフリー乗降区間の設定を行う。</p> <p>また、わかりやすい路線とするため、路線の分割を行う等の見直しを行う。</p> |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月 日

| | |
|-----------------------------|---|
| 協議会名: | 北斗市地域公共交通活性化協議会 |
| 評価対象事業名: | 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | <p>北斗市は、面積397.44km²、人口44,302人（令和2年国勢調査）で、北海道の南端部に位置し、南部は函館湾、南東部は函館市、東部は七飯町、北部は森町及び厚沢部町、西部は木古内町に隣接している。平成18年2月1日に上磯町と大野町との合併により誕生したまちであるため、市街地が分散しており、郊外には人口減少が急速に進んでいる地域を抱えている。北斗市と函館市の結びつきは、経済面・生活面で強く、通勤・通学・通院等を目的とし、北斗市と函館市間の移動ニーズは高い。</p> <p>広域幹線（地域幹線系統）としての道南いさりび鉄道・JR北海道・函館バス（上磯線、大野線、郊外路線）を有効活用し、北斗市から函館方面への公共交通のアクセスの強化を図ることで、公共交通の持続性を確保しなければならない。</p> <p>既存の公共交通で補完できない地域については、自家用自動車以外の選択肢がタクシーのみとなっており、それを原因とした免許返納の躊躇が想定されているため、一定程度の人口が集中するも、広域幹線（地域幹線系統）・市内幹線（フィーダー系統）では補完できないエリアについて、買い物や通院といった日常生活に必要な移動を捉えた効率的な運行が可能な巡回ワゴンを導入し、新たなフィーダー系統としての運行を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく取組を進めているところである。</p> |